

くみあいニュース

山口大学教職員組合 (2024年9月26日 Thursday)

第281号 (2023年度-第6号) / 電話: 083-933-5034・メール: fuy-union@galaxy.ocn.ne.jp

3年連続の基本給(平均2.76%)・ボーナス(0.1月分)引上げ～ 2024年人事院勧告(8/8) 物価上昇には追いつかず～

人事院は8月8日、国家公務員の給与引き上げを勧告しました。全体として、異常な物価高のもとで民間企業の賃上げ状況を踏まえた数十年ぶりの高水準な引き上げとなっています。具体的には、基本給の2.76%引き上げ(2%以上の引き上げは1992年の2.87%以来、32年振り)・ボーナス0.1月分引き上げ(4.5月分から4.6月分へ)ですが、基本給引き上げは昨年以上に新規採用者・若手重視で大きく傾斜しており、大卒総合職は15%近い引き上げで初任給230,000円とされていますが、教授クラスはわずか1%程度の引き上げとなっており、物価上昇分にもまったく見合っておりません。新幹線利用通勤手当の大幅引き上げの他、扶養手当のうち、子については引き上げる一方で配偶者への支給(月6,500円)は廃止とされており、所帯状況によっては減額の可能性もあります。



人勧ではこの他に注意すべきこととして、「成績最優秀者への勤勉手当上限引き上げ」があります。これは、成績優秀者へは勤勉手当支給上限を標準者の3倍まで可能にするというものです。成績優秀者の認定権は事実上、部局長等にあり、万一これが適正に運用されなかった場合は様々な問題が生じます。そうした「原資」の引き上げは当然、組合との協議・交渉事項となります。

大学会館空調費払えぬ演劇サークル 公演練習中に熱中症

尋常でない猛暑が続く中、山口大学の演劇サークル笛の部員が演劇公演のための大学会館ホールでの練習中に熱中症を発症しました。劇団笛は、今年1月から始まった大ホール利用時の空調費徴収による経費を負担する財源がなく、やむを得ずエアコンを使わず練習していたところ、8月4日に部員の一人が熱中症で倒れ救急治療を受けるという「事件」が起きたとのこと。酷暑のもと、開放部のほとんどない大学会館大ホールでの動く練習による結果であることは疑いありません。空調費徴収については昨年組合として、教職員・学生のための施設利用で徴収すべきではないという立場でとりくんだことは「くみあいニュース(第269, 272, 276号)」でもお知らせしてきました。



熱中症の半数以上は室内 発症者の大半に後遺症 ただちに無料へ!



例年以上の高温続きのもと、全国各地で熱中症患者が急増し、最悪の場合は死に至るケースもあるようですが、熱中症患者の半数以上は屋外ではなく室内で、その大半がエアコンをかけていない室内での発症というデータがあります。そして熱中症の恐ろしさは、死に至るケースだけでなく重い後遺症が残る場合があるということです。総務省による令和6年8月の統計では、熱中症で救急搬送された人は全国で32,806人、そのうち死亡された方が43人(0.1%)、中等症(入院診療)10,615人(32.4%)、重症(長期入院)708人(2.2%)との報告がなされています。今回の「事件」は、山口大学の愚策が招いたことであり、幸いにして最悪のケースには至っていないようですが、課外活動・福利厚生のある大学会館で、当然に必要なとされる空調機利用を避けなくても済むように無料に戻すことが急がれます。

授業料値上げ反対・高等教育無償化署名 山口大学でも広がる運動

国立大学の授業料値上げ問題は、東京大学が9月24日、来年度より現行から2割増しの642,960円へ引き上げることを正式に決定したと公表したことで新たな局面に踏み込みました。東大はその一方で、授業料免除基準の引き下げと教学環境改善等を発表していますが、授業料値上げが今後、全国的に広がるのが懸念されます。そうした中、山口大学でも学生による「学費値下げ、給付奨学金拡充」等を求める署名運動（明るい革新日本をめざす中央青年連絡会議主催）のとりくみが進められています。山口大学教職員組合もそうした運動を支援する立場で宣伝に協力することを決定し、署名の回収場所の一つにもなっています。教職員のみならずのご協力をよびかけます。



下関市立大学の理事解任無効訴訟で勝利的和解(6/13) ～教授会の審議権剥奪・懲戒権の専制的運用に道理なし！～



下関市立大学の飯塚靖元教授が在職中に理事を解任されたことへの無効確認を求めた訴訟で、6月13日に広島高裁において和解が成立しました。この和解は、下関地裁での一審判決で出された「理事解任後の未払い報酬支払い」を上回る解決金支払いを含むもので、弁護団は「勝利的和解」との声明を発しています。

下関市立大学では2019年5月以来、大学の定款・諸規則を無視した採用人事の強行と教授会審議権の全面的剥奪、無軌道な懲戒権行使など、およそ大学とは思えない全国的にみても異常な大学運営が続いています。そうした元でこの5年間で約60名の経済学部教員の3分の2に及ぶ40名前後の方が同大学を去っています。定年退職者を含むとは言え、考えられない数となっています。そうしたもとにあっても、正常な大学運営を求める教員、教員組合は懸命のとりくみを続けています。現在も懲戒処分規則を巡って中央労働委員会での和解交渉が続けられている他に、広島高裁で教員の懲戒処分無効訴訟も続いています。今回の勝利的和解は、そうした闘いや全国の大学教職員組合のとりくみにとっても大きな意義を持つものとなると言えます。

陸上自衛隊の商店街パレード 原爆の日を避け武器持たず(8/7)

昨年8月6日、山口市でおこなわれた「山口七夕ちょうちんまつり」の日に、陸上自衛隊山口駐屯地が中心商店街を自動小銃に重火器まで携帯し武装行進をおこなったという事件が起きたことはご承知の方も多いでしょう。この「七夕ちょうちんまつり自衛隊武装パレード」では、山口市長が「観閲官」としてこれを出迎える予定でしたが、市民団体（総がかり行動山口）の抗議・申入れの結果、市長は「観閲官」を辞退し「山口市旗掲揚」も中止されました。

自衛隊パレードは、今年もちょうちんまつりに合わせて行われましたが、昨年の抗議を無視することができなかったのか、8月6日（広島原爆の日）ではなくその翌日の8月7日に、また武器ではなく「提灯・うちわ」を持ち、一部はキツネの面をかぶり、そして笑顔で歩いていました。迷彩服着用はそのままでしたが、質問に対して「戦闘服ではなく（災害救助等の）作業服だ」との説明があったそうです。行進の名称も事前には「ちょうちんまつりパレード」と称していたようですが、実際には当日、「観閲行進」とアナウンスしており、今後も、一部の他の市町で実施されているような戦車まで登場する大規模な軍事行進にエスカレートすることのないよう、「要注意」です。



速報 山口大学姫山祭(11月) 今年も自衛隊車両展示なし